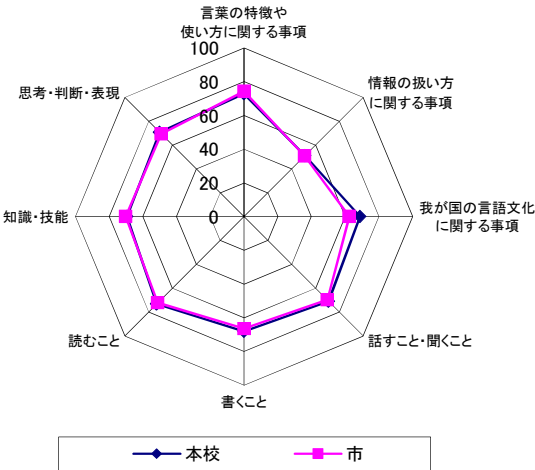


宇都宮市立明保小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.9	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	51.1	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	68.8	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	71.0	69.9	69.7
	書くこと	68.1	66.4	64.6
	読むこと	73.3	72.3	71.0
観点別	知識・技能	69.5	70.1	70.0
	思考・判断・表現	70.8	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

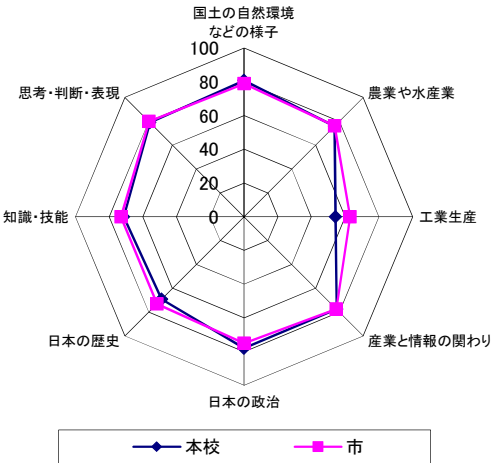
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	●平均正答率は72.9%で、市の平均を1.4ポイント下回った。 ●5・6年の漢字の読み書きの問題については、ほとんどの漢字で市の平均を下回った。 ●文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う問題では、正答率が24.7%で、市の平均を12.0ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、漢字スキルやまとめのテストを中心に繰り返し行うことでしっかりと定着させるように支援する。また、授業中の辞書の活用、国語に限らず文章を書く際には、文脈に沿った漢字を使うことを意識させ、日常的に使うことができるように支援する。 ・漢字ステップアップや言葉ステップアップを活用して、漢字や言語に関する復習を進めていく。
情報の扱い方 に関する事項	○平均正答率は51.1%で、市の平均とほぼ同程度だった。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書いているという問題で市の平均を下回った。	・日記指導や作文指導、説明文の要約など目的を意識しながら簡単に文章をまとめるという活動を取り入れていく。
我が国の言語文化 に関する事項	○平均正答率は68.8%で、市の平均を6.4ポイント上回った。 ○漢字の由来を問う問題では、市の平均を6.4ポイント上回った。	・漢字の読み書きについては、引き続き、国語に限らず他教科においても文章を書く際に既習の漢字を意識させて日常的に使うことができるよう支援する。 ・我が国の言語文化についての関心を高めたり、知識を身に付けたりできるよう、俳句・短歌作りや百人一首などを授業に取り入れていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は71.0%で、市の平均を1.1ポイント上回った。 ○話し手の目的に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が100%だった。 ●互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめる問題では、正答率が23.7%であり、市の平均を下回った。	・相手の意図を考えながら聞くことが課題と見られる。今後は、相手の意図を考えながら聞くことや意図を明確にして話することに重点をおいて話し合い活動を実践していく。
書くこと	○平均正答率は68.1%で、市の平均を1.7ポイント上回った。 ○指定された条件の中で文章を書く問題では、ほとんどの項目で市の平均を上回った。	・国語科の授業を中心に、条件を満たしながら文章を書くという活動に引き続き取り組んでいく。また、文章を書く際の型を与えるなど、書くことが苦手な児童への支援もしていく。
読むこと	○平均正答率は73.3%で、市の平均を1.0ポイント上回った。 ○説明的な文章において、文章全体の構成を捉える問題では、市の平均を9.2ポイント上回った。 ●物語の内容を読み取り、まとめた感想を共有し、自分の考えを広げる問題では、市の平均を4.1ポイント下回った。	・説明文の読み取りでは、文章全体の構成や論の進め方を中心に指導していく。物語の読み取りでは、登場人物の心情や行動について描写を基に捉えることを指導していく。また、文章から読み取ったことを基に自分の考えを書いたり、考えたことを共有したりする時間を授業の中に位置付け、自分の考えを広げられるようにする。

宇都宮市立明保小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	80.9	78.9	75.4
	農業や水産業	75.9	76.1	71.2
	工業生産	54.3	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	77.7	77.6	59.7
	日本の政治	77.9	75.0	79.3
	日本の歴史	69.1	73.1	72.8
観点別	知識・技能	71.4	73.0	71.4
	思考・判断・表現	79.0	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

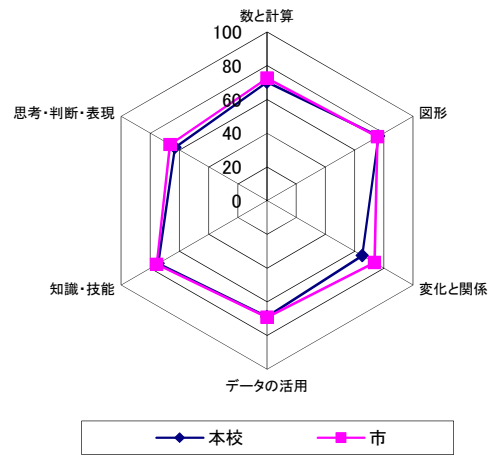
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○平均正答率は80.9%で、市の平均を2.0ポイント上回った。 ●日本の周辺の海洋名について問われる問題では、市の平均を5.4ポイント下回った。	○授業内において日本や世界の基本的な知識を定着させていく。また、地図帳を活用して、地名や位置関係の理解を深めていく。
農業や水産業	●平均正答率は75.9%で、市の平均を0.2ポイント下回った。	●日本の農業や水産業について、基本的な知識だけでなく、資料を読み取ったり、特色について調べたりするなど、タブレット等を活用してより深い学びにつなげていく。
工業生産	●平均正答率は54.3%で、市の平均を8.6ポイント下回った。 ●日本の工業生産の問題では、全ての項目で市の平均を下回った。	●日本の工業について、基本的な知識だけでなく、資料を読み取ったり、特色について調べたりするなど、タブレット等を活用してより深い学びにつなげていく。
産業と情報の関わり	○平均正答率は77.7%で、市の平均とほぼ同程度だった。 ○インターネットを利用するときの注意点について問われる問題では、正答率が90.4%であり、市の平均を1.5ポイント上回った。	●主に5年生での学習内容である。情報は、すでに現代の生活に深い関連があり、その役割や活用の仕方についての学習は必要不可欠である。今後も機会を捉え、復習を行うと共に、児童にとっての深い学びにつなげていきたい。
日本の政治	○平均正答率は77.9%で、市の平均を2.9ポイント上回った。 ○日本国憲法や日本の政治について問われる問題では、ほとんどの項目で市の平均を上回った。	●憲法や国会の仕組み、裁判の仕組みなど児童にとって難しく感じられる内容については、具体例を工夫したり、デジタル教材を活用したりするなどして児童がイメージできるように支援していく。また、新聞やニュースから時事問題を取り上げ、授業で得た知識と結びつけることで、より深く理解させる。
日本の歴史	●平均正答率は69.1%で、市の平均を4.0ポイント下回った。 ●歴史の問題では、ほとんどの項目で市の平均を下回った。	●日々の授業において楽しく復習に取り組めるようにしていく。また、単発の知識で終わらせるのではなく、時系列や時代の背景、出来事が起こった理由などと関連させて構造的に理解できるよう支援していく。

宇都宮市立明保小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.3	72.6	73.1
	図形	76.3	75.7	74.7
	変化と関係	65.2	73.6	66.1
	データの活用	68.8	69.2	70.7
観点別	知識・技能	74.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	63.0	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

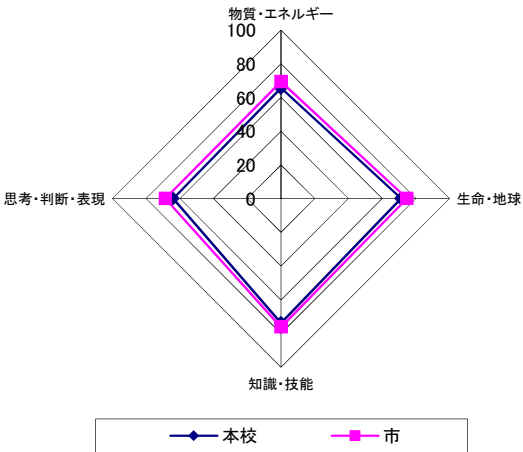
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は70.3%で、市の平均を2.3ポイント下回った。 ●基本的な計算や立式など、小数を扱うほとんどの問題で市の平均を下回った。 ●文字を使った式を表す場面を選ぶ問題では、市の平均を10.6ポイント下回った。 ○基本的な分数の計算は、市の平均と同程度であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数や分数の計算には、引き続き継続して取り組ませていく。文字を使って考えたり、立式したりすることに慣れていない児童もいるので、xやyを使った問題にも引き続き取り組ませていく。また、文章題については、数直線や図を用いて考えることを授業の中で指導していく。
図形	○平均正答率は76.3%で市の平均を0.6ポイント上回った。 ○高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める問題では、市の平均を9.9ポイント上回った。 ●線対称な図形の対応する点を見つける問題では、正答率が43.0%と低く、市の平均を5.9ポイント下回った。	・基本的な面積や体積を求める問題には、継続して取り組ませていく。対称な図形では、線対称な図形・点対称な図形を実際に作図したり、問題に取り組んだりすることで定着を図っていく。
変化と関係	●平均正答率は65.2%で市の平均を8.4ポイント下回った。 ●どの公園が最も混んでいるか単位量あたりの大きさで比べる問題では、正答率が57.0%であり、市の平均を16.3ポイント下回った。 ●速さの問題において分速を秒速や時速に直す問題では、市の平均を12.8ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさで比べるという基本的な考え方が身に付いていない児童が多いため、授業の中で復習する時間を取る。速さの問題では、道のり・速さ・時間の関係や時速・分速・秒速の意味や活用法をもう一度見直し、さらなる定着を図る。 ・割合や速さの学習には、苦手意識のある児童も多いため、能力に合った教材や資料を用いて簡単な問題から取り組みませ支援を続けていく。
データの活用	●平均正答率は68.8%で市の平均を0.4ポイント下回った。 ●円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題では、正答率が低く、市の平均を2.9ポイント下回った。 ●代表値を用いてデータを比べ、説明する記述式の問題では、正答率が24.7%と低く、説明が不十分だったり無解答だったりする児童も一定数いた。	・ドットプロットや柱状グラフ、度数分布表などの用語の意味の確認や読み取りの指導を続けていく。また、データの活用の単元だけではなく、全ての単元で考えの過程を記述したり、説明したりする活動を授業の中に取り入れていく。

宇都宮市立明保小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.6	69.3	65.7
	生命・地球	71.2	74.7	77.8
観点別	知識・技能	73.8	76.2	76.4
	思考・判断・表現	64.0	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●平均正答率は、65.6%であり、市の平均を3.7ポイント下回った。 ○もののとけ方の問題では、全ての問題で市の平均と同程度か上回った。 ●ふりこのきまりについて実験を計画する問題では、正答率が43.6%であり、市の平均を13.8ポイント下回った。 ●電磁石の極と方位磁針の指す向きを答える問題では、市の平均を14.3ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・児童は、実験に対する意欲が高く、進んで取り組むことができるが、実験の目的が不明確なままであったり、結果から考察することが苦手だったりすることが見られる。そのため、目的を明確にし実験を計画したり、結果から分かることを文章で書かせたりすることで定着を図るようにしていく。また、基本的な知識については、タブレットなどを活用し、繰り返し問題に取り組ませていく。
生命・地球	●平均正答率は、71.2%であり、市の平均を3.5ポイント下回った。 ●だ液のはたらきを調べる実験の問題では、正答率が低く、市の平均を16.2ポイント下回った。 ●月と太陽の問題では、全ての問題で市の平均を下回った。	・実験の際には意識して対照実験の結果を比較したり、まとめたりするなどの学習活動を取り入れていく。また、学習内容の定着を図るために、タブレットなどを活用し、繰り返し問題に取り組ませていく。

宇都宮市立明保小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	宮っ子学力ステップアップやドリル学習を年間を通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	6年生の漢字の読み書きでは、市の正答率よりもやや下回っているが、計算の正答率ではやや上回っている。 「宿題はきちんとやっていますか」「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合については、3・5年生は80%台で市の平均をやや下回っており、それ以外の学年は90%以上で市の平均を上回っている。また、3年生以上の「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」については、市の肯定的割合を10ポイント程度上回っている。
対話的で深い学びを通した問題解決学習	授業の導入では、課題を明確にし、展開ではソーシャルディスタンスの確保に留意しながらペアやグループで課題解決を行い、終末では学習の振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した児童の割合が、2年生は78%で市の肯定割合を2.6ポイント下回っているが、他の学年では80%を超えており市の割合を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・4・5年生ともに、県の調査では漢字を正しく読み、書くことがおおむねできている。また、計算については、4年生は県の正答率を上回っているが、5年生は下回った。6年生は、国の調査では文の中で漢字を正しく使う問題の正答率が国の平均を上回ったが、市の調査では平均を下回った。計算については、国・市の調査の平均正答率を上回っている。次年度も継続して、基礎・基本のより確実な定着のために、A I ドリルを用いた反復学習や既習事項の復習・確認など、指導の充実を図るとともに、少人数指導や習熟度別学習など、個に応じた指導を行う。

・県・市の調査において、「宿題はきちんとやっていますか」「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は、ほとんどの学年において90%以上である。次年度も、家庭との連携を図りながら、学年に応じたよりよい家庭学習の習慣化を図っていく。